

## あとがき

人間科学研究所全所的プロジェクトとして2013年度に開始した、文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「インクルーシブ社会に向けた支援の〈学=実〉連環型研究」プロジェクトが本年3月で完了する。このプロジェクトでは、人文・社会・自然科学の諸領域の研究者と、福祉・更生・対人支援などの現場で活躍する実務家が数多く集結し、それらの人々が密接に連携しながら、具体的な課題解決に取り組んできた。プロジェクトリーダーとして私自身がその活動に直接貢献できたことは少ないが、〈学=実〉連環研究のための場づくりの手伝いをする中で、実際の社会問題の解決に間接的に貢献できたことは大変貴重な経験であった。またプロジェクトが展開する中で、これまで全く接点がなかった研究者と実務家の間で連携のための新しい「結び目(knot)」が形成され、その結果としてさまざまな問題解決や新しい対人支援のスタイルが提示され、さらにそれらの活動から多くの若手研究者や実務家が育つ様子を目の当たりにしてきた。このような過程を振り返る時、本プロジェクト全体としては、「〈学=実〉連環」のための拠点形成という目標について一定の成果を得ることができたと考えている。

そして現在、これまでに形成された拠点を基盤として、さらなる〈学=実〉連環のアイデアについての議論がすでに始動しつつある。また、研究者・実務家に加えて市民の力を取り込む「学・実・民」を志向するプロジェクトも始まりつつある。これらの新しい動きによって、本学が私立総合大学としての社会的使命を果たしつつ、真の意味で社会全体を巻き込んだインクルーシブネス、つまり包摂型の社会にむけた大きな運動の発信基地となるよう、私自身も引き続き貢献をしていくことができると考えている。

最後に、本プロジェクトの発足から今日まで、研究・実践・運営に携わった全ての方々に深く御礼を申し上げたい。

「インクルーシブ社会に向けた支援の〈学=実〉連環型研究」

プロジェクトリーダー・立命館大学政策科学部教授

稲葉 光行

